北ア雪倉岳

2011年5月2日～4日

山本　実（L、記）、釣　秀平

5月2日（月）　晴　風強し

1日からの予定だったが、天気の具合が良くないので1日繰延べて2日の朝、栂池からゴンドラに乗った。自然園でロープウェイを乗換えるのだが、上が強風のため運休と言われる。しばらく様子を見るが状況は変わりそうにないのでスキーをはいて上まで登る。2～30分で栂池ヒュッテまで上がったが天狗原に上がる尾根を通り過ぎてしまい、急斜面に取り付いて尾根まで上がる。4日分の荷物が重いが、急ぐ気配のかけらもなく休みながら天狗原まで上がった。

蓮華温泉に泊まれば荷は軽く優雅だが、そこはまだテント泊にこだわりたい。

天狗原は広い雪原となり、正面には白馬乗鞍の大斜面が広がっている。食指をそそられるが、今日は雪原を横断して蓮華温泉を目指す。スキーヤーも大方ここまでで、結局私たちパーテイのみとなる。トレースはあるが、強風であまりはっきりしない。ガスっていたら戸惑うところだ。沢への降り口からオープンバーンが広がる。さあ行くぞと気張っても荷が重くてターンが決まらない。ここは実力相応にボーゲンで高度を落とす。沢が狭くなってきたあたりから左岸に上がり左へトラバースし、隣の沢から林道へ降りた。ほどなく蓮華温泉の駐車場へ出るとテント場の指定あり。まだ時間は早いので温泉の先のいいブナ林の中でと思ったが、温泉でビールが手に入るのが決め手、ザックをおろす。雪倉朝日を眺めながらビール片手にとりとめのない話に時間を過ごす。アァ贅沢だ。

8：00ロープウェイ駅～12：10-12：30天狗原～14：10蓮華温泉（テント泊）

5月3日（火）　曇

天気はいま一つパッとしないが、暑すぎないしちょうどいいか。今日は瀬戸川の出合から1200m以上の標高差をこなさなければならない。トレーニング不足の体で如何ほどかかるか。ブナ林が好ましい兵馬の平を横切り、一旦尾根に上がり瀬戸川に滑り込む。スノーブリッジを渡って一休み。あとは泣いても笑っても登りのみ。覚悟を決めて（いや、何となく）板を前に出す。

雪倉の滝を巻き気味に落ち口の上へと出る。

ブロック雪崩の跡を横切り、急斜面ではスキーを担ぎ、いつの間にか何人にも抜かれ、ひたすら下を見て登る。時々上を見上げるとまた同じ景色なので見上げたことを後悔しながら、ひたすら登る。なにか考えながら歩けば気がまぎれると集中するが、瞑想はすぐ妄想へと堕落する、、、。沢状から丸い尾根状に変わるころ、傾斜も少し緩くなって頂上への大斜面が広がり、周りの展望もきくようになり足もはかどる。

雪倉頂上着1時すぎ。さすが風が強い。雲が、頭上覆いかぶさってはいるが、視界は良い。白馬も朝日も久しぶり。遠くに見えるは犬ヶ岳か。

さあ、滑降だ！と滑り出すと早速アイスバーンにはまりお手付きをする。気を取り直し、日本離れしたスケールの大斜面を滑りだす。あとはもう広大な斜面でどこを滑っても快適な斜面。斜度もきつすぎず、緩すぎずちょうど良い。こんなのちょっとない。釣さんと前後しながら高度を下げる。これを

やりに来たんだと思えば登りの苦労も報われる。大斜面から右の沢へ入り雪倉の滝をトラバースし、急斜面を一気に瀬戸川合流点へ滑り込む。太腿がもたないので途中止まりながら降りてきたのにも拘らず、頂上から小一時間しかかからなかった。歩いて下山ならこうはいかないしスキーの機動力はすごい。板を外して大休止。

蓮華温泉まで登り返しもあるのでしぶしぶ腰を上げる。兵馬平には寄らず尾根裾をコンター沿いにトラバースしながら戻った。帰り小屋でビールを仕入れる。また今日もアルコールを受けつけない釣さんと宴会だ。何に乾杯と行くか。まあ「雪倉に！」が最初だね。

6：00発～7：30-7：50瀬戸川～13：10-13：30雪倉岳～14：20-14：40瀬戸川～16：00蓮華温泉（テント泊）

5月4日（水）　晴

朝日岳往復はアッサリ諦め、今日は下山。年のせいか連日2往復はきつい。とはいっても天狗原までの登りがある。重い荷を担いで700mはしんどい。しかしこれがあるから入山者はセーブされるのだ。

息を切らしながら、天狗原着12：00。あとはロープウェイ駅まで最後の滑りを楽しむ。駅を行き過ぎるオマケがついた。

7：30発～12：00-12：15天狗原～13：10ロープウェイ駅

地図：白馬岳、黒薙温泉（2万5千）